

2023年1月24日に、人権啓発イベント「多様性の中に隠れている見えない境界線～認め合うことから始めませんか～」を鯉城ホール(名古屋市中区)にて開催しました。



▲短編映画「TINAの物語」

伊藤クリスティーナ氏(BriAsia合同会社代表)の半生を基に制作した短編映画「TINAの物語」を上映した後、講演を行っていただきました。



伊藤 クリスティーナ氏

日本人にもフィリピン人にもなりきれない自分とフィリピン人の母親との軋轢や、日本人同級生との出会いで「自分はここにいていいんだ」と境界線乗り越えたエピソード等、「多様性とは何か」「認め合うためにはどうすれば

良いか」について、気づきとなるお話をしていただきました。

その後、ブラジル、インドネシア、アルゼンチン、パキスタン出身のパネリストの方々と「認め合うことから始めませんか」をテーマにパネルディスカッションを行いました。日本人の“やさしさ”で境界線を引かれてしまったり、互いの先入観から分かり合えなかったり、聞く・伝えることで分かり合えたり…といった様々な立場からのエピソードをお話いただきながら、「見えない境界線」について議論しました。



左から、伊藤 クリスティーナ氏、ラッマクマラ デウィ氏、金箱 亜希氏(コーディネーター)、菊地 健二氏、アミウル ハッサン氏、村山 グスタボ 秀夫氏

「多様な言語や文化を本当に尊重しているか」「無意識のうちに誰かを『こちら側』と『あちら側』に線引きしていないか」といった問い掛けを促し、自分の見えない境界線を見つめ直すきっかけとなるイベントとなりました。

ホームレスの方への理解を深めましょう

～どうしてホームレスになってしまうのか～

愛知県内のホームレスの方の数は、令和5年1月の調査で136人が確認されました。これは初めて全国調査が行われた平成15年1月の調査の2,121人から1,985人の減少となっています。現在確認されているホームレスの方の多くは名古屋市など大都市圏に偏っている一方、いくつかの市町村でも、少数ですがホームレスの方が確認されています。

どうしてホームレスになってしまうのでしょうか?その生い立ちには、幼いときに家族を失ったり、病気やけが等により仕事を失ってしまったなどの背景がある場合もあります。

そして、困難な状況になったとき、誰にも相談できないまま、社会から孤立してしまい、結果として住む場所までも失ってしまった場合があります。一度住む場所を失ってしまうと、再び元の生活を取り戻すには多くの問題を解決しなくてはなりません。

多くのホームレスの方は、各種の支援施策や生活保護などを活用し、住まいを確保し、ホームレスから抜け出すことができました。しかし、それだけでは、社会から孤立している状況に変わりありません。地域や社会の中で生活を続けるためには、社会や人とのつながりを作っていくことが必要となります。

ホームレスという問題への理解を深めて、ホームレスの方を生まない社会にしていけるためには、私たち一人一人が考えていくことが大切ではないでしょうか。地域で生活する私たちも互いに支え合い、助け合える関係にあることがとても大切です。

そのうえで、自分の中にある偏見と向き合い、誰もが暮らしやすい社会を目指して、私たちに何ができるかを考えていきましょう。

■愛知県内のホームレスの方の数の推移

